



祝辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

いよいよ皆さんは大学生、その名のとおり、「学生」と呼ばれる立場になりました。

日本の教育基本法および学校教育法の諸条文では、小学生を児童、中・高生を生徒、大学生を学生と呼んで区別し、『日本国語大辞典』（小学館）によれば、児童とは「心身ともまだ十分に発達していない者」。生徒とは「学校などで教えを受ける人」。学生とは「学問をしている人」と説明しています。

条文上、「大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする」（教育基本法・第7条）とされており、皆さんは今、この世界のルーキーですが、先輩研究者のアドバイスを受けてトレーニングし、やがて中心選手として活躍されることを期待しています。

物事が不完全に見える直感は重要で、世界は、常に次世代の人たちによって上書きされていきます。

文学部の皆さんは、4年次に卒業論文や卒業研究、卒業課題などを執筆することになりますが、その際には、3年次までに培った教養と専門的な能力を使って真理を探究して新たな知見を発表することになるわけです。

進学に際して、将来について熟慮されたと思いますが、「初心忘るべからず」で、卒業後の未来に焦点を合わせた卒業論文・卒業研究・卒業課題の完成を目指してください。

ところで、皆さんは、夢が溢れて1日24時間では足りないと感じたことはありませんか。

推理小説でよく使われる「alibi（アリバイ）」という言葉は、一般に「現状不在証明」と訳されますが、私たちは、同時に二つの場所に存在できません。そのため、常に「どこで何をするか」の選択に迫られますが、一つを選んで他を諦める決断は意外と難しく、私たちは、つい、人の真似をしがちです。

しかし、同じ環境にある人はいませんし、体力、気力も皆違いますから、人のやり方が自分にも合うとは限りません。通学距離が異なれば、1日、1週間、1ヶ月に必要な通学時のエネルギー量は、皆、異なります。

ですから、その時、人が頑張っているからといって、自分も頑張る時間にする必要はありませんし、逆に、人が休んでいるからといって、自分も休憩時間にする理由にはなりません。とはいえ、「心中の賊を破るは難し」（王陽明）で、渡る世間には誘惑もいっぱいです。

やはり、目標に向かって「今、すること」を決めたら、それに集中することが重要で、それを続けるためには、的確な休憩時間を配して、作業上のエネルギー消費のペースを乱さないリズムカルな生活習慣を維持する計画性も必要だと思います。

大リーグの大谷翔平選手は、オフには寝てばかりいるそうですが、それはオンの時のエネルギー消費が心身ともに凄まじいからでしょう。

「今日、この時間に何をしたか」が、明日のパフォーマンスに影響するようです。

これからの4年間は、自分との闘いになると思いますが、是非、誘惑に打ち勝って、描いた卒業後の未来を実現してください。



令和 7年 4月 5日

鶴見大学・鶴見大学短期大学部

文学研究科長・文学部長 小林 恭治

